



緑肥・緑化の部屋 7

～環境保全の実践を目指して～

タキイ種苗(株) 営業部 緑化飼料課

農業従事者の高齢化が進む中、除草労力の軽減を目的としたグランドカバープランツが注目されていますが、最近、雑草抑制力を持つ「ティフ・ブレア」が注目されています。

Q なぜ、「ティフ・ブレア」で雑草を抑えることができるのですか？

A 「ティフ・ブレア」はセンチピードグラスの改良種です。センチピードグラスは和名をムカデシバといい、その地上ほふく茎（ランナー）がムカデに似ていることに由来しています。

「ティフ・ブレア」の太いランナーが幾重にも交差（写真1・2）することで、雑草などの飛来種子が土壌表面に到達するのを抑制し、雑草を減少させていきます。

また、「ティフ・ブレア」の葉や根から抽出される化学物質（アレロパシー物質）も、雑草の生育を

阻害する力を持っているといわれています。

さらに、最近ではカメムシの発生を抑制できるという論文も発表され、斑点米の防止にも期待されています。



↑株から伸びるランナーが旺盛に生育し、地表を埋めつくす。

Q 「ティフ・ブレア」を定着させるためのコツはありますか？

A 「ティフ・ブレア」の定着を成功させるには、1日でも早く被覆させることが重要です。早期被覆のためには、最適期である梅雨直前に施工し、自然降雨と施肥、刈り込みを積極的に行うことです。休眠前の11月ごろに完全被覆が達成できれば、施工年内にも雑草抑制力を発揮します。逆に被覆が遅れば遅れるほど、多くの雑草種子が地面に到達し、「ティフ・ブレア」と雑草との競合が長く続くことになります。

→
美しい稲穂と「ティフ・ブレア」。



定着の一番のコツは、あきらめないことです。多くの方は「ティフ・ブレア」

が雑草に覆われた状態を見て、それを失敗とってしまうようです。雑草に覆われた時が本格的な管理のスタートと考え、雑草に負けないほどに「ティフ・ブレア」を旺盛にし、刈り込みを行えば、やがて「ティフ・ブレア」が雑草に打ち勝ってくれます。



←
1年目は雑草に隠れて大丈夫かと不安だが、低い所でしっかり定着は始まっている。雑草が20～30cmくらいに伸びたところに5cmくらいの高さで雑草を刈り取り、日当たりをよくして「ティフ・ブレア」を生育させる。



←
2年目の施工区。2年目からその定着ぶりが実感できる。



→
施工3年目。ここまでくればもう安心。草刈りの手間はぐっと低減。



↑施工3年目で、草刈りを3カ月していない場合の草丈。

J A 湖東の施工事例

水田の畦畔法面が美しい。 やってよかった3年目の実感！ 見学者も具体的導入をイメージ！



(編集部)

タキイが提案する改良センチピードグラス「ティフ・ブレア」での畦畔管理。その現地検討会を2009年10月16日、滋賀県東近江市で開催いたしました。

高齢化や時間に追われる日々の中、畦畔の草刈りの手間は大変なもの。草刈機があっても、急な斜面の法面では機械も扱いにくく、危険も高まります。

- きれいにはしたい、でも重労働はもう無理。
- 自分が世話役になったものの、地域で何度も草刈りに人を集めるのも大変。
- 放棄地や周囲の雑草が害虫越冬の住処になっては困る。

このように、どこの地域も多かれ少なかれ抱える悩みは同じでしょう。

J A湖東理事部長の野田さんも同じような悩みを抱える中、まずは自分の圃場周りでその効果を見極め、本格的に地域で導入を図っておられます。J A湖東管内の大林町では、農地・水・環境保全向上対策補助を利用しての導入3年目。J A湖東さんのご協力でもともと開催した現地説明会は、今年で2回目となります。

野田さんも確信を持つ過程では、やはり1年目が不安だったようです。

「1年目は不安、2年目で不安が消えて、3年目でやってよかったとなる。特に1年目、『ティフ・ブレア』の強さを信じて草刈りを乗り切れば、ちゃんと定着している。2年目から見違えて、3年目からは天国ですよ。駄目もとでやった急な法面も、2年目でちゃんと差が出てきました」

質問者の関心の一つは、「ティフ・ブレア」施工前の除草についてです。最初に雑草を除草した方が「ティフ・ブレア」の定着は早いのです。

「昔は畦畔の崩落を防ぐのにイタリアンやソルガムなどが中心に植栽された。確かに崩落防止には役立つものの、イタリアン自身が雑草化するんですよ。ランナーも張らないし、草刈りや管理が大変でした」

それなら、当初から「ティフ・ブレア」を導入するのが最も手間いらずです。

「本当は最初から『ティフ・ブレア』を入れていればよかったと思います。もし、これから土地改良の計画が地域であるなら、私は迷わず『ティフ・ブレア』を入れてもらいますね」

今回は参加者の感想も具体的でした。

「現場を見て、聞いて、自信を持って推進できる」

「現場を見てよかった。ぜひ導入したい」

「畦畔の灌水対策が課題」

「集落営農にとっては保全という意味で期待大。

集落で相談したい」

「昨年も来たので比較できた。3年目の状況に導入の確信を持った」

「早速注文したい」

と、想像以上の反応で、畦畔の管理は地域の大きな課題なのだと改めて確信いたしました。

野田さんの印象的な言葉があります。

「お盆やお彼岸時分、この畔道をお墓参りの人が通るんですが、ここの畔はきれいにしてあるねって感心して通って行かれるんです。そういう声を聞くと、みんなにも喜んでもらえて本当によかったと思いますね」

地域の環境と美観を守り、次の世代に伝えていく。まずは「ティフ・ブレア」の導入をご相談ください。

参加者から野田さんへ

一問 一答

説明いただいた
野田さん。



Q 「ピット苗での導入の理由は？」

A 斜面では苗が有利、タネは発芽まで2週間以上もかかります。

Q 「ピット苗定植のピッチは」

A 1m×20mの畦畔で200穴1トレイ分くらい。30cm間隔の千鳥にしますが、必死に計っていたのは最初だけ、適当にやっています。

Q 「植え付けはいつがベスト？」

A 畦畔の灌水作業は大変。梅雨の雨を頼んで6月がおすすめです。

Q 「刈り取った芝はそのまま放置してはダメか」

A 蒸れて病気が発生するでしょう。収穫前の水田はダメですが、それ以前の夏なら田に入れておけば勝手に腐るし、刈り取り後なら田に落としておけば大丈夫です。

Q 「ランナーが伸びすぎないか」

A 水に弱いので水田には入らないが、水路がふさがれないよう、30cmほどあけておくなど工夫は必要。

Q 「肥料は必要か」

A やった方がよいでしょうが、3年目の今年はやっていません。

Q 「草刈りなしとはならないか」

A 私は年5～6回やっていたのが3回に減るという感覚でやっています。1～2年目はむしろ増えるかもしれませんが、定着すれば斜面でも踏ん張れるし、一気に草刈りが楽になります。私は草刈りがしにくい斜面などに入ればよいと考えています。